

令和4年度 綾瀬市立綾西小学校 学校関係者評価報告書

| | | |
|---------------------|---|--|
| 綾瀬市教育委員会の基本方針 | (学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども | |
| 学校教育目標 | 「進んで学ぶ子」 (知) 「思いやりのある子」 (徳) 「じょうぶな子」 (体) 「ねばり強い子」 (意) | |
| 学校経営方針 (ランドデザイン) | | |
| 今年度の重点目標 | ○育成すべき力① 「自分事として考える力」の育成を図る。 ○育成すべき力② 「思いやりを持って人と関わる力」の育成を図る。 ○育成すべき力③ 「自分の健康・安全を守る力」の育成を図る。 ○育成すべき力④ 「最後までやり抜く力」の育成を図る。 | |
| 取組分野 | 評価の観点 | 学校の自己評価と改善策 |
| 1 学習指導 | 学校は、「よく考え、進んで学習する子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。 | 校内研究を中心に授業改善に取り組んできた成果として、約8割強の児童が「進んで学習している」と回答しています。これは伝え合う活動を通して、思考力や表現力を培ってきた授業改善の成果であると考えます。今後は学習課題に対して児童が自分事として捉え、更に主体的に思考を深めることで、学習が楽しいと思えるような授業づくりを目指していきます。 |
| 2 教育課程 | 児童は、学校行事や特別活動にねばり強く取り組んでいる。 | 今年度は、3年ぶりに学年発表会を実施したり、運動会も感染症対策を行いながら、リレーや応援団なども行い、児童の活躍の場を増やしたりしました。また、にこにこ活動や秋・冬集会も計画的に実施し、主体的に関わり合う姿を見ることができました。その結果、9割強の児童・保護者が、児童は学校行事等に対して楽しみにし、がんばって意欲的に取り組んだと回答しています。今後も、児童がめあてを持ちのびのびと活動できるよう計画し、実施していきます。 |
| 3 児童・生徒指導 | 学校は、思いやりのある子を育てる指導を積極的に行っている。 | 児童・保護者とも約9割が肯定的な回答をしています。しかし、「そう思う」の割合は児童が約6割、保護者は4割と高い結果とは言えません。特に挨拶は、昨年同様、自発的に挨拶をする児童にばらつきが見えます。原因として、児童会を中心とした児童が主体となる挨拶活動が実施できていないことがあげられます。今後は、地域、家庭、学校(教職員・児童)が一体となった挨拶運動の徹底を図っていきます。また、挨拶だけでなく、感謝の気持ちを持ちながら、相手を思いやることのできる児童を育てていきます。 |
| 4 児童・生徒指導 | 児童は、友人や先生との学校生活に満足している。 | 週1回程度実施の「ロング昼休み」を活用したクラス遊びや自由遊び、「にこにこ活動」や「秋・冬集会」を通して、多くの友だちと交流してきた成果として、約9割強の児童が「友だちと学校生活を楽しんでいる」と回答しています。また、「スクールアンケート」に「友だちの良い行動を見つめる」欄を設けていることは、人間関係を築くうえで効果的でした。今後は児童同士が触れ合う活動を重視するとともに時間を確保し、すべての児童にとって楽しいと思える学校を目指します。 |
| 5 児童・生徒指導 | 学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。 | 「スクールアンケート」の取り組みや、児童指導委員会、ケース会議によって教職員は約9割が肯定的な回答をしています。しかし、保護者の肯定的な回答は6割程度で、教職員と保護者の捉えに差があります。教職員はいじめの早期発見・再発防止に努めていますが、さらに理解を求めするために、学校だよりや懇談会等、周知の機会を見つけて、今後も積極的に知らせていく必要があります。また、いじめ防止宣言を各クラスで設定し掲示したり、授業参観等で道德の授業を積極的に公開し「思いやりの心」の育成に取り組んでいる様子についても知らせたりしていけるようにしていきます。 |

| | | |
|----------------------|-------------------------------------|---|
| 6 保健管理 | 学校は、じょうぶな子を育てる指導を積極的に取り組んでいる。 | 今年度は、「にこにこ活動」や「秋・冬集会」を計画通り実施することができ、休み時間の外遊びや、体育学習の実施、養護教諭の指導の結果として、9割を超える児童、保護者が、肯定的な回答しています。しかし、教職員は9割が肯定的な回答をしてはいるものの、「そう思う」が2割に対して「ややそう思う」が7割強と課題を感じていることが分かります。運動の喜びを実感させ、いかに生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現の土台となる授業づくりをしていくか、今後研修、研究を通して取り組んでいきます。 |
| 7 安全管理、教育環境整備 | 学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。 | 今年度は、避難訓練を実際の発生を想定した集合形式で2回実施し、警察の方の協力による交通安全教室や退避訓練も実施することができました。併せて、各学級で避難経路・手順の確認や、安全を守る指導を行いました。また、警察署の協力による退避訓練に向けた職員研修も実施しました。登下校時の事件・事故に備えて、職員が分担して見回り態勢をつくっています。今後も、PTAや地域の方の協力を得ながら、さらに登下校時における安全の徹底を図り取り組んでいきます。 |
| 8 支援教育 | 学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。 | 個別に支援が必要な児童には、保護者の要望をもとにして保護者・学校・専門機関相談員との協議を速やかに行い、一人ひとりに応じた教育環境を整えることに努めています。今年度は、教室での授業が難しい児童や登校渋りの児童の対応のために、「ほっとルーム」を設置し、個別指導体制を強化しました。また、スクールカウンセラーによる教育相談も積極的にを行い、支援が必要な児童に対し組織的な対応を行うことができました。今後も、教育相談コーディネーターと教頭が窓口となり、学習支援者と担任、養護教諭、スクールカウンセラーとの連携のもと、支援が必要な児童に適切な学習支援が実施できるようにしていきます。 |
| 9 組織運営 | 学校は、校長を中心とした運営組織になっている。 | 今年度は、ランドデザインを職員室や各教室、校舎内に掲示し、周知徹底に努めました。各総括教諭、学年代表を中心に全職員が、校長がランドデザインで掲げている目指す児童像の実現に向けた計画、実践、振り返りを行うことができました。今後も、ランドデザインを意識し、担当総括教諭が中心となって、各グループが連携しながら、効率的で活発な運営が機能するように取り組んでいきます。 |
| 10 教職員の研修 | 学校は、教職員の授業力を高めるための校内研究の取組に力を入れている。 | 今年度は、教師のファシリテーション力に視点を置き、「自分らしく、豊かに学び合う子」の育成に向けた授業づくりを検討、実践していく中で授業力の向上を図ることができました。また、研究・研修グループが主体となり、ミニ研修を数回行ったり、城山中学校の校内研究発表大会へ全職員が参加したりして、教職員の力量の高まりを図ることができました。今後も、校内研究を充実させるとともに、中堅教諭を中心とした職員研修の実施を計画し、授業力向上及び力量の向上に努めていきます。 |
| 11 教育目標・学校評価 | 学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。 | 児童に応じた適切な指導を行い、よりよい成長を図るために、月に1回開かれる児童指導委員会や職員会議の場において、児童指導支援コーディネーターが中心となって、全職員で見守っていく必要のある児童の情報や変化の様子を確認し、今後の関わり方や支援のあり方などを共通理解しました。また、スクールアンケートで問題を把握し、迅速にチームで対応しました。今後も問題行動の状況把握・報告・協議・関係機関への連絡・対応などを迅速に行い、早期解決を図るようしていきます。 |
| 12 情報提供、保護者・地域住民との連携 | 学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。 | 今年度は、個別面談や授業参観、学年発表会や運動会等で学校での様子を直接見ていただく機会を昨年度以上に作ることができました。また、ホームページも開設し、学校だよりや学校運営協議会の様子などをお知らせしました。今後も、学校だよりや学年だより等の内容を精査し、地域・家庭に配付する中で、教育活動の実践を伝えていきます。また、校内の掲示物も工夫し、保護者が来校した際に学校や児童の取り組みを「見える化」していきます。そして、情報発信に留まらず、実際に学校での様子を見ていただく機会の確保を検討していきます。 |

【学校運営協議会からの意見及び改善策】

- ・保護者の回答数が少ないのが気になる。紙媒体の方がなじみがあり回答しやすい家庭も多い。今回、全てFORMSでの回答に切り替えたことで拒否反応を感じた保護者もいたのではないかと。→本年度同様に、書面とC4thで通知するとともに、新たに記入忘れチェック表を紙で提出してもらうようにして、回答数の増加を図る。
- ・1年生の学年発表会は素晴らしかった。コロナウイルス対応で制限されることもあるが、行事を通しての成長はやはり大きい。今後も学校行事については、充実させてほしい。
- ・ほっとルームで困り感のある児童を対応するのはとても良いこと。教員の手が足りないことについては、今後、学校運営協議会の継続的な課題として話し合う必要がある。例えば、ボランティアを募集したり、城山中や早園小と連携し、共通課題として市教育委員会へ提案したりするなど具体的に動いていく。